

## 主日礼拝

2022年04月24日  
午前10時30分

前奏「ハレルヤ、ハレルヤ」(L. ピッキ)

参集 (報告・紹介・予定)

## 招詞

「主をたたえよ  
日々、わたしたちを担い、救われる神を。  
この神はわたしたちの神、救いの御業の神  
主、死から解き放つ神。」 (詩編68:20-21)

## 頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちち子せいのひとりの主よ、さかえとち  
からはただ主にあれ、とこしえまで。  
アーメン。

## リタニー 「イースター」

司式者：ハレルヤ！  
主はよみがえられました。

会衆：ハレルヤ！  
ほんとうに主はよみがえられました。

司式者：神さまは、わたしたちを悲しみの中に放っておかれませんか。

会衆：もう泣かなくてもいいよ、と言ってくださいます。

司式者：神さまは、わたしたちを絶望の中に捨てておかれませんか。

会衆：希望を持ちなさい、と言ってくださいます。

司式者：神さまは、  
イエスさまをお墓の中に閉じ込めて、  
それでおしまいにされません。

会衆：新しいのちに、よみがえらせ、  
おしまいでないことを示されます。

司式者：ハレルヤ！  
イエスさまは生きておられます。

会衆：ハレルヤ！  
神さまは今も働いておられます。

## 祈禱

献金 献金箱が受付に置いてありますので、礼拝前にお献げください。

## 主の祈り

天にまします我らの父よ、  
ねがわくは み名をあげさせたまえ。  
み国を来らせたまえ。  
みこころの天になるごとく  
地にもなさせたまえ。  
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。  
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、  
我らの罪をもゆるしたまえ。  
我らをこころみにあわせず、  
悪より救い出したまえ。  
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの  
なればなり。  
アーメン。

## 聖書 ヨハネによる福音書 20:19~31

新約(新共同訳)p210

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵が掛けてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

## 賛美 326 「地よ、声たかく」

Ἰερουσαλήμ ἁγία  
詞：Joannes Damascenus, 675?—749?

LANCASHIRE (SMART)  
曲：Henry F. Smart, 1813—1879

地よ、こえたかくつけしらせよ、  
 とうときイエスのよみがえりを。  
 死より命へとみちびきたもう  
 主イエスとともにわれら進まん。

- 1 地よ、声たかく告げ知らせよ、  
 とうときイエスのよみがえりを。  
 死より命へとみちびきたもう  
 主イエスとともにわれら進まん。
- 2 罪に打ち勝ち死をやぶりて  
 われらの心解き放つ主。  
 その勝ち歌こそ全地に満ちて、  
 救われしものともに歌う。

- 3 天よ、喜べ、地よ、たたえよ、  
 造られしもの声あわせよ。  
 主のよみがえりのこの日を祝い、  
 尽きぬ喜び われらたたえん。

## 説教 「鍵を開けて出て行こう」

## 賛美 197 「ああ主のひとみ」

詞：井澤利男, 1926—, 梅田信治, 1922—1976

SHU NO HITOMI  
曲：高田早穂見, 1926—

ああ主の - ひ - とみ、 ま - なざ - しよ - 、  
 き - よき みまえを さ - りゆきし -  
 とめる わこうど みつめつつ -、  
 なげくはた - れぞ、 主 - ならずや -。

- 1 ああ主のひとみ まなざしよ、  
 きよきみまえを 去りゆきし  
 富める若人 見つめつつ、  
 なげくはたれぞ、主ならずや。
- 2 ああ主のひとみ まなざしよ、  
 三たびわが主を いなみたる  
 よわきベトロを かえりみて、  
 ゆるすはたれぞ、主ならずや。
- 3 ああ主のひとみ まなざしよ、  
 うたがいまどう トマスにも、  
 み傷しめして 「信ぜよ」と、  
 招くはたれぞ、主ならずや。
- 4 きのうちきょうも かわりなく、  
 血しおしたたる み手をのべ、  
 「友よかえれ」と まねきつつ  
 待てるはたれぞ、主ならずや。

## 派遣

- 司式者 主は言われます。  
 「わたしは誰を遣わすべきか。」
- 会衆 わたしがここにおります。  
 わたしを遣わして下さい。

## 祝祷

## アーメン

アーメン アーメン アーメン

## 後奏 「復活節の賛歌」 (P. サントウツキ)

司式 袁 紅  
 説教 向井 希夫牧師  
 奏楽 大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、  
 座ったままで礼拝をお守り下さい。  
 ※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。